

文京区における印刷業の地域的特質と変化

宮 下 啓 子

1. 研究の目的と方法

印刷業は情報産業の一翼を担う典型的な都市型工業であり、特に東京都の地位は全国的に見ても圧倒的に高い。その立地状態を見ると、零細企業が一地域に集中して同業集団を形成し、住工混在の景観を見せている。本研究においては、印刷業が集中している都心部の中で特に文京区をとりあげ、東京都における同区の特徴を明らかにし、さらに集中地域における経営状況を調査して地域的特質を把握すると共に、現在の問題点や変化の動向を考察して将来の展望を試みた。

研究方法としては、東京都や文京区の印刷業の概要を工業統計表等で把握した上で、集中地域の工場の実態調査を行い、そのデータを重視して本論文の中心とした。

2. 論文要旨

印刷業は関連業種と共に同業集団を形成して都心部の低地を中心に集積し、業者同志が下請や外注という関係で密接に関係しあっている。文京区はその集積地のひとつで、江戸川沿いと小石川谷が2大中心地である。

文京区の印刷業は明治後期の博文館の創設に始まり、関東大震災を契機として大きく発展した。特に最近では千代田区を始めとするこれまでの中心地からの工場移転が増加しており、得意先への交通の便がよいという都心部ならではの立地上の有利性を生かして、印刷業の中心地としての地位を確立している。

文京区の印刷業の特色は、都心区の中でも特に零細性が強いことがまずあげられる。印刷方式の面では、業界全体で平版化が進む中で依然活版印刷への依存度が高い。また伝統的に出版印刷が多いが、この分野で以上の特色が顕著である。そし

て、出版印刷業者は地域的に集中しており、各地域毎に特有の経営体制が見られる。

小石川谷では白山2丁目に集中し、ここでは特定の印刷会社の下請になる業者が多い。最近では出版印刷だけでなく、他の分野にも手を広げ、平版化も進みつつある。業者の入れ変わりもあり、オフセットを中心とした新興業者も見られる。それに対して、江戸川沿いでは後楽2丁目と水道2丁目に集中している。特に後楽2丁目は出版社との関係が密接で、そこからの注文に特化して、古い活版方式を維持しており、大きな変化がない。

また、文京区印刷業の最近の全体的な傾向として分業化が進行している。印刷工場は従業員規模を縮小する一方、機械化による合理化を進め、印刷のみに専業化して関連工程を外注に出すことが多くなった。出版印刷でも印刷業者は印刷のみを行い、親会社が分業体制を指揮している。外注先は従来のように近辺だけでなく、工場規模や技術面などの関係で板橋や埼玉など遠隔地化している。また区内の工場が手狭になったので、ある程度の規模の工場では郊外移転も行われている。

このように生産体制における業者のつながりが広範囲になっていくにつれ、地域との結びつきが次第に弱まってきている。工場労働者も近県からの流入者が多く、経営者も住居を他地に移して、生活との分離が進みつつある。したがって文京区の印刷業といっても各業者が独自の経営体制を有しているため、地域産業としてのまとまりは弱い。文京区の印刷業界は現在出版業界の不況による出版印刷の不振や活版印刷の衰退などの問題を抱え、特に活版業者の後継者不足は深刻である。したがって、これらの問題に対処するために零細業者の協力体制の確立が望まれる。